

# まず一歩政治動いた

## 鶴見中で夜間学級支える 三階泰子さん

この春、横浜市内の5中学にある夜間学級の生徒に、初めて教科書が配られた。そのきっかけを作ったのは、横浜市鶴見区に住む主婦、三階泰子だった。

三階は15年前から、鶴見中学校の夜間学級に毎日、手伝いのボランティアとして通っている。当時話題になった映画「学校」が描いた夜間中学が母校の鶴見中にもあると知り、まず見学に行った。「夜間の生徒は素直で熱心で先生とのやりとりも生き生きと温かく、映画以上にドラマミタいでドキドキしました」

魅せられて何度も訪ねるうちに運動会を応援し、卒業式に花束を贈る間柄になった。今では日本語が上手でない外国人生徒が増え、隣に座って言葉を一つひとつ説明して先生を助ける。内田伊佐夫校長

「見えた?」「何これ!」。理科の顕微鏡観察で盛り上がる夜間学級の生徒たちを、三階泰子さん(左から2人目)が見て回る。横浜市鶴見区の鶴見中学校



も頼りにしてくれる存在になった。打ち解けてたどたどしい日本語で悩みを打ち明け、卒業後も頼ってくる生徒も

## 教科書の無償配布 実現

いて、いっそう喜びを感じる。「子どもたちのためというより、自分のために通っているんです」と三階は言う。特に6年前に亡くなった夫の闘病を支える間は、学校に来ると心が落ち着き、また頑張ろうと元気をもらえたという。だからこの5、6年、自腹で教科書を買って生徒にプレゼントしてきた。

「日本語がすらすら読めなくても、日々の授業ではあまり使わなくても、教科書は向学心を受け止めるシンボル。高校進学した子は、中学の復習にも使う。同じ中学生なのに、夜間の子だけ教科書がもらえないなんておかしい」

胸のうちにあったそんな思いを今年3月、夜間中学に関する集会で話したところ、出席者で手分けして市の教育関

係者にはがきで訴えることになった。そのはがきがきっかけで市議会でも取り上げられ、あれよあれよと言う間に教科書の無償配布が実現した。



2010参院選 有権者の視線 3

今年の鶴見中の夜間学級では、女子3人と男子2人が学んでいる。4人が中国人、1人がバンングラデシュ人だ。6月最後の理科の授業に、二瓶和秀教諭が選んだのは顕微鏡観察。真新しい教科書を手

に、5人は理科室で顕微鏡をのぞき込み、はしゃぎながらタマネギの根の細胞をスケッチした。その様子を三階はうれしそうに見守った。「自分が楽しく、やれることだけやってきた。政治がこんなに市民に近づいてくれるとは思っていなかった。10年、20年と一つのことを続ければ、世の中は少しずつ変わるのかもしれない」と三階は言う。

今年度の選挙も「みんなが願う方向への変化は簡単じゃないなど痛感します。でも政治家も私たちも、あまり早く結論を出し過ぎない方がいい。あきらめず一歩でも前に進むつもりで投票に行きます」。(敬称略)